

今日のニュースで図－1に触れました。「20代の「参加したい派」が71.0%で最多」と聞いて、妙に嬉しくなり、ある二つ（次頁）が浮かびました。



転職サービス「doda」などを手掛ける「パーソルキャリア」が、忘年会について調査したところ、今年の職場の忘年会に「参加したい」派は「どちらかといえば」を含め、全体の60.1%となりました。年代別では、**20代の「参加したい派」が71.0%で最多**となり、次いで30代が57.8%、40代が55.1%、50代が48.3%と減っています。20代はコロナ禍に社会人になった人も多く、職場での関係を構築したいという理由で忘年会に意欲的な若者が多くなっています。一方、40代・50代では、忘年会でもハラスメントに配慮した発言・振る舞いが求められることから、消極的な人が一定数いるようです。働き方の多様化が進み、忘年会の位置付けも「義務的な飲み会」から「フラットな関係構築の場」に変わってきているということです。（「グッド！モーニング」2025年11月19日放送分より）

◆1；2025（R7）年4月26日（土）、私の自宅から少し離れた松本さんの自宅で酒飲みした時のことです。若き山形大学生と東北芸工大生が私と隣り合いました。その中の山大生——酒におぼれるという大酒飲みの人ではなかった——が**“人間関係融和の肝は酒だ、対人関係縄れをほぐす特効薬は酒だ”**という旨を話されました、話の口調に本気を感じました、今でも忘れません。嬉しくなりました。

◆2；2025(R7)年9月15（月）～16日（火）の1泊2日（清川行人小屋泊）で実施したMAR塾のことを取り上げます。西川町地域おこし協力隊（インターン／研修生を含む）との登山道整備と史跡等勉強会の協働（共同）の機会があったのです。

その時は清川行人小屋に泊まり6人で酒飲み会を開きました。盛り上がった頃、端っこに居たうら若き女性が自発的に片倉（まもなく70台）と大沼（76）のいる端っこに来て、いわゆる「お酌」をしてくださいました、今時には・・・（とても珍しい！） 私は適切な言葉が出て来ないのですが、今時の私の先入観というキャビキャビ（キャピキャピ）した幼稚っぽい語り口は微塵も感じませんでした。みんな、しっかりとした夢と希望を抱いていました、挑戦、模索、迷い、小さな挫折感・・・入り混じる中にも決してあきらめないという確固たる瑞々しい意志を感じました。

私はぐっと堪えたが、時々内心熱くなるものを感じました、年齢や個性が雲散霧消した無境界世界観を堪能しました、まさしく、真の対等互啓（恵）精神を以って、生き方交換をしたという思いがしました。私は76年の中で、若い頃から登山を趣味とし数多の山小屋に泊まりましたが、このようなセンチメンタルな雰囲気味わったのは初めてのことでありました。

以下は、その時のピックアップ写真です。

I 日目				
				
「天空石橋」／仙台の方2名と		「天空石橋」／仙台の方撮影		「天空石橋」／若きエース
				
ロープ取付／手盡坂／1 箇所目		ロープ取付／手盡坂／2 箇所目		



小屋に着いて、まずは乾杯



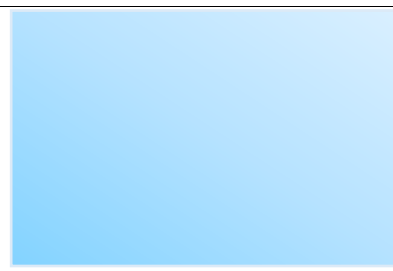
1日目の夜「それぞれの半生を語る会」 しんみり （吾が心中に感涙・・・）
かつ、フロンティアスピリットを隠し味に



於「御所王子社」



「御所王子社」／小屋をバックに



2日目

於清川行人小屋



2日目／朝食



2日目／出発時



皆で登山道「よこみち」に被さった笹竹切断

ロートルであっても誰しもが若い人達との交流はあるかと思いますが、老荘青・老若男女のごちゃ混ぜは、新しい気付きが生まれ、また、相手の長所が見られ、お互いにとってとても良いのではないかと思います。後期高齢者が“対人関係融和の肝は酒だ”などと言うと『古臭い』と嫌われそうですが、そうでもないようです。もちろん、人それぞれ、酒飲みが全てではないというの当然のことですが、頭から『酒飲みが全てではない』などと否定的に振る舞うよりは“対人関係縄をほぐす特効薬は酒だ”と言う方がずっと心と和やかになるというものです。 歳や経験年数、身分や学歴とは一体何であろうか。

「むきよくしてたいきよくなり無極而太極也」。 人が純粹無垢・純真・天真爛漫・童心・赤心・無心・謙虚・率直・営利損得排除という本源の在り方に立つ時、そこにこそ万里・万物を生みだす原動力——すなわち創造性——が発動されるのであろう。いわゆる、前向き・肯定的なインスピレーションが自噴・湧き立つであらう。

(end)